

日時：2019年*月*日（*）13:15～14:25

場所：中学部2年*組

T1〇〇, T2〇〇, T3〇〇

1 題材名

箱編みをしよう！～めざせ！つまみの達人！～

2 題材について

(1) 対象となる生徒の実態

本対象生徒は、中学部2年生女子で、ウィリアムズ症候群の診断を受けている。障害特性からくるものと思われる視空間認知の困難さがあり、文字を書き写したり、絵を模写したり、物体をそろえて置いたり、おかずを箸で挟んで取ったりすることが苦手である。また、追視し続けることや注視し続けることも難しい。

身体の動きの面では、手先の細かな動きに困難さが見受けられる。緊張する場面や、集中力が必要な場面では課題に取り組む際などに手が震えてしまうことがある。これまでの学習で物をつまむ際は、指先の腹でつまむという動きは分かり、言葉かけをすると意識してつまむことができるようになってきた。しかし、日常生活で生かし切れていない面がある。着替えの際のボタンかけを、指の側腹で行っており、指先に力を込めて一つ一つボタンをかけることが難しい。ボタンを外すときは、布を手全体で引っ張るようにして外している。襟は鏡を見ながら確認して直すことが苦手である。手の機能の発達はおよそ3歳～4歳程で、静的三指握りの段階であることが考えられる。「およその発達段階表（Ver.5）（安部博志）」では、日常生活力の発達段階が4歳4ヶ月であった。特に「身だしなみを自ら気付いて整える」「はみ出さずにクレヨンで塗りつぶす」など、目と手の協応が必要な動きに困難さがあることが見受けられる。

学習課題などの取り組みの様子は、一度手順ややり方を覚えると、見通しをもって一人で取り組むことができる。その反面、初めてで見通しがもてないことや、緊張や不安から焦りが生じることがあると、注意力、集中力がそれ、課題が持続しにくく取り組み方が雑になってしまう傾向がある。

上記のことから、空間の捉え方や、手先の細かな動き、それに伴う目と手の協応させた動き、注意力、集中力の持続に課題があることが考えられる。

(2) 題材設定の理由

上記の実態から注意力や、目と手の協応動作の課題に着目した。そこで本題材では、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の内容の中から「2 心理的な安定（2）障害による学習又は生活上の困難を改善克服する意欲に関すること」「4 環境の把握（4）感覚を統合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること」「5 身体の動き（5）作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること」の指導内容を受けて、手先の巧緻性や目と手の協応動作を高めるための動作ができるものとして「箱編み」を取り扱っていく。「箱編み」はつまんで引っ掛けるだけと動作がシンプルであるが、注視する力、つまんで引っ張る力、引っ掛ける箇所を間違えずに進めていく力が必要となってくるため、目と手の協応性やつまむ力の向上につながると考えられる。また、できた成果がマフラーの長さとして見えるため「素敵なマフラーを作るために」という生徒の活動意欲の向上にもつながるのではないかと考えた。活動を続けることで集中力を持続できる時間が長くなったり、手先の力が高められたりすることが期待できる。そのため、日常生活での着替え、食事、書字などの動作の向上につながると考え、本題材を設定した。

(3) 指導目標とリストアップされた項目及び具体的な指導内容

長期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・鏡で確認しながら、教師がチェックのする前に自分で服装を整えることができる。 ・決められた時間内で、1つの活動に集中して取り組むことができる。 ・初めて会う人や目上の人に敬語で会話することができる。 ・適切な距離を保って会話することができる。
短期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・10分間持続して1つの活動に取り組むことができる。 ・箱編みでは指の腹で紐をつまみ、目標の時間内で編み続けることができる。 ・会話する相手との適切な距離や言葉遣いが分かり、実践することができる。

項目 リストアップ	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(2)障害による学習又は生活上の困難を改善克服する意欲に関すること 一つの課題に対しての集中力の持続	(2)他者の意図や感情の理解に関すること (3)自己の理解と行動の調整に関すること 相手や物との距離感の捉え方	(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること 手先を意識して動かすこと	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること 手先を使った微細な動き 目と手の協応動作	(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること 場面に応じた相手との距離のとり方

指導内容	目標となる時間や、活動の終わりの目安を示し、見通しをもって活動に取り組めるようにする。	親指と人指し指でつまむなどの指先の細かな動きと、注目して取り組むことが必要な活動を行えるようにする。	挨拶、報告や質問するときの相手との距離のとり方や言葉など活動ごとに確認できるようにする。
------	---	--	--

(4) 指導にあたって

まず、一斉で指の体操を行い、個別の課題に取り組むための準備をする。指の体操をした後、箱編みを行う。集中して取り組むことができるよう、音や視覚的な刺激を取り除き、机には箱編みの道具のみが置いてあるようにする。時間の見通しが持てるようにタイムタイマーを用意し、活動時間の終わりの目安が分かるようにする。また、決まった活動時間（20分）内に、集中するための約束事として、静かに、よく見て、順番に指の腹でつまむことを箱編みが始まる前に確認し、静かに取り組むことができるようにする。最後の振り返りでは、生徒が集中している様子が分かるよう、動画に記録し、どのようなところが良かったか、目線はどこにあったか、何分集中できたかなどを一斉に見て確認することができるようにする。また、時間毎に頑張った記録が残るような表を用意し、表のシールが増えるごとに、つまみの達人に近付いていることをイメージできるようにし、評価を残すことで課題に取り組んだ跡が目で見えて分かるようにしていきたい。

3 指導計画

次	ねらい	指導内容	時間
一	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、つまむ動きはどのようなときに使うのか確認することができる。 ・人差し指と親指でつまむことがスムーズにできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、つまむ動きをする場面イラストや写真で確認する。 ・スーパーボールリレーや、つまみの体操を行い、指の腹でつまみ取る動きがスムーズにできるようにする。 	2
二	<ul style="list-style-type: none"> ・箱編みの方法について知ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・箱編み機を制作したり、箱編み機に触れて操作したりすることで、これから取り組むことの見通しがもちやすくなるようにする。 	1
三	<ul style="list-style-type: none"> ・箱編みをすることで、つまむ力や指先の巧緻性、目と手の協応性を高めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つまみの体操をした後、活動時間を決め、タイムタイマーで時間を示し、集中できるようにする。 ・指の腹でつまむことが意識できるよう、指先に印を付ける。 ・箱編みしている様子をiPadで動画に残し、活動している姿の振り返りができるようにする。 	6 / 12 (本時)

四	<ul style="list-style-type: none"> マフラーをお互いに見合うことで、つまみの達人に近づいたかなど、他者や自分の良いところを見つける力を高めることができる。 正面を見て背筋を伸ばし、まっすぐ歩くことで、正しい姿勢で歩く力を高めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちや自分の良いところを発表する機会を設け、他者や自分の良い面を見つけられるようにする。 ファッションショーで正しい姿勢で歩く例をイラストや写真で見せることで、前をまっすぐ見て歩くことが意識できるようにする。 	1
---	---	--	---

4 本時の指導

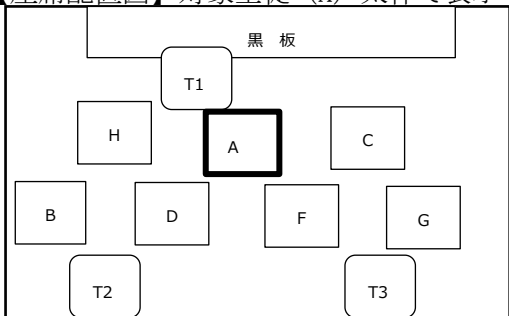
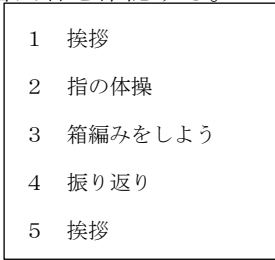
(1) 目標

- 指先をよく見て 10 分間以上箱編みに取り組むことができる。
- 人差し指と親指の腹を使って、毛糸をつまむことができる。

(2) 教材・教具

ホワイトボード、箱編み機、毛糸、タイムタイマー、シール、ワークシート

(3) 展開

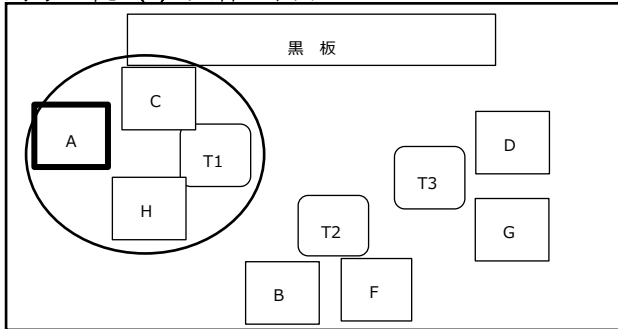
時間 (分)	主な学習活動・内容	教師の手立て
全 (3)	<p>1 始めの挨拶をする。</p> <p>【座席配置図】対象生徒 (A) 太枠で表示</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢を正して挨拶ができるよう、正しい姿勢の例を見せながら言葉かけをする。
全 (5)	<p>2 学習内容を確認する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> T2, T3は「今日はどんなことを頑張るのかよく見よう。」など生徒が、本時の学習に注目できるような言葉かけをする。 生徒が注目しやすいよう、T1は矢印で活動内容を一つ一つ示しながら活動を進めていく。
全 (10)	<p>3 全体の学習目標を確認する。</p> <p>指の腹で毛糸をつまんで箱編みを進めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> つまむ動きについて、スライドを見ながら確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 指の腹を意識して使うことがポイントだということが確認できるようイラストで示す。 スライドに注目しやすいよう、大きくテレビ画面で内容が見られるようにする。 注目しづらい生徒には、スライドを印刷したものを用意し、手元でT2, T3と一緒に確認できるようにする。

全 (10) 4 指の体操をしよう。
 ・「つまみの体操」をする。
 (5分間でイラストの手順通りに体操をする。)

個 (25) 5 箱編みをしよう。
 ①箱編みをするときの約束を確認する。
 ②机を箱編みの配置に移動する。
 ③個別の目標と活動をそれぞれの場所で確認する。
 ④自分の取り組む箱編み機を持っていく。
 ⑤それぞれの場所で活動を行う。

【座席配置図】箱編み

対象生徒 (A) 太枠で表示



個 (15) 6 振り返りをする。
 ・個別目標を確認し達成できたかを、全員で振り返る。
 ・目標が達成出来たら、ワークシートにシールを貼り、記録をつける。
 ・iPad で記録された箱編みしている様子を見て振り返り、良かったポイントの解説を聞く。(2人《A》, 《G》)

全 (2) 7 終わりの挨拶をする。

- ・指の腹でつまむことが難しかった場合は、スーパースポーツボールを用意し、つまむ動きがしやすいようにする。
- ・つまみ方がイメージしやすくなるように、イラストでつまみ方を示す。
- ・「指の腹と腹を合わせましょう」と言葉かけをし、つまむときに意識しやすいようにする。
- ・つまむことが難しい生徒には手を添えて、つまむことができるよう支援する。
- ・それぞれの目標が書かれたカードを見せながら、一緒に確認を行う。
- ・つまみ方や箱編みの方法をイラストで示す。
- ・毛糸をつまむ際は指の腹が意識できるように、シールなどで指に目印を付けておく。
- ・終わりの時間が分かるよう、タイムタイマーで残り時間を表示しておくことで見通しをもてるようにする。
- ・取り組んでいる様子を振り返られるように、iPad で記録を取る。(2人)

指の腹で毛糸をつまみ、10分以上箱編みに取り組んでいる。< 5—(5) >

- ・それぞれの個別目標と、今回どれ位達成することができたかを一緒に確認する。
- ・動画を確認する際は、視線は箱編み機や手元に向いているか、時間内に集中してできたかなどポイントを押さえて一緒に確認し、良かった点を解説する。
- ・姿勢を正して挨拶ができるよう正しい姿勢の例を見せながら言葉かけを行う。

板書計画

目標

指の腹で毛糸をつまんで箱編みを進めよう。

学習予定

- 1 挨拶
- 2 指の体操
- 3 箱編みをしよう
- 4 振り返り
- 5 挨拶



箱編みするときの約束

- 静かに
- 手先をよく見て
- 指の腹でつまむ



個別目標
ワークシート

個別目標
ワークシート

個別目標
ワークシート

個別目標
ワークシート



個別目標
ワークシート

個別目標
ワークシート

個別目標
ワークシート